

I R だより

～ I R (INSTITUTIONAL RESEARCH) の “今” を分かり易くお届け～

室員紹介



安田 稔人 教授

氏名：安田 稔人
職名：教授
入職：2002年
担当業務：I R室
看護学部担当
兼任、看護学
部入試委員
会、看護学部
教育センター
専門分野：整形外
科学、足の外
科、急性期成
人看護学

自己紹介 (現在の業務)

私はこれまで18年間、本学医学部の整形外科学教室に在籍し、足の外科、スポーツ整形外科の分野を中心に臨床、研究に研鑽を積んでまいりました。2020年より看護学部に移り、教育分野に深く関わるようになりました。看護学部においては療養生活支援看護学の臨床医学分野に所属し、解剖、生理、病態を中心とした講義や演習のほか、臨床実習でのカンファレンスに参加し、学生指導を行なっています。また、看護学教育センターにおいては本学の多職種連携教育にも関わり、整形外科学教室とも連携して医学部、薬学部、看護学部の学生と3学部合同で臨床カンファレンスなども行なっています。2021年からは、看護学部でI Rを担当し、看護学部でのI Rの活用、普及に取り組んでいます。看護学部では入試委員長を兼任しており、入試種別に入学後の学生の科目別成績を解析し、入試の妥当性などを毎年検討し、次年度の入試に役立てています。

今後の抱負

看護学部では、教育の成果やカリキュラムの評価などが非常に熱心に行われていますが、これまでI R担当教員がいなかったため、「I R室って何をするとところなの？」という雰囲気があります。私自身もI Rについて詳しい知識はありませんでしたが、2022年9月に獨協医科大学との合同で本学において開催された教学I Rセミナーで、医学部、看護学部の事例紹介が行われ、I Rの活用や課題について多くの知識を得ることができました。看護学部からも多くの教員が参加してくれましたので、今後は看護学部における教学I Rの普及に微力ながら尽力したいと思っています。現在、看護学部では「問題を解決する力」として思考力、姿勢・態度、経験の3観点の評価として、1年生、3年生時にジェネリックテストを行なっています。多くのテストデータがありますので、これらと入学後の学力成績や実習成績、学生生活状況との関連を検討することで、精神面を含めた学生のサポートにつなげることができればと思っています。

M J I R 2022に参加しました

I Rの全国的学会組織の一つである、M J I R (大学情報・機関調査研究会)の今年度の研究集会である「M J I R 2022 第11回大学情報・機関調査研究会」が2022 (令和4)年11月11日 (金) から13日 (日) の3日間、専修大学神田キャンパスにて開催され、本学I R室から、柝澤健史副室長、外山智士課長、村上公子主任の3名が参加し、全国からの参加校の発表を聴講し、情報収集を行うと共に、柝澤副室長と外山課長がそれぞれ学会発表を行い、村上主任と柝澤副室長がポスター発表を行いました。

主催者の発表によると、学会の参加申込者数は約150名で、過去3年で最大規模となりました。入退場自由のため参加者数は常に変動しますが、会場参加とZoom参加合わせ、概ね参加申込者の半数前後が聴講していました。

今回の研究集会では、専門分野としては、半数強が情報学系の方法やシステム開発の研究、残りが高等教育機関の教育学や組織論の研究の報告でした。内容としては、情報学系では教育成果等の学生情報の分析に関する研究が多くを占め、以前よりも研究・研究者情報に関する報告は少なくなりました。これはI R研究と実践の蓄積によって研究支援のためにすでに必要な情報が明らかになっている状況を反映していると考えられます。教育についても同様で、複雑な分析手法や新たなシステムの開発よりも、実態をクリアに表現するシンプルな統計や指標から実際の改善に活かすための方法、または体制づくりに関心が移ってきている印象でした。

そうしたなか、今回、注目度が高かったテーマのひとつが認証評価や学修・学生支援を中心とした質保証の内容と運営 (教職協働を含む) であり、本学I R室による3発表はオーディエンスの数も多く、一定の存在感を示すことができました。また、今回の研究集会は従前に比して教務系を中心とした事務職員の参加が多かったことから、I R業務おける事務 (マネジメント) の役割 (外山課長)、学生調査実施のノウハウ (村上主任・柝澤副室長) の報告は、実務経験によるI Rの事例報告として好意的な反応が得られ、教育年報を用いた質保証体制確立の狙いと事例の報告 (柝澤副室長) に関しても、フロアからは質保証におけるI Rの活動として参考になる事例だというコメントがあり、3発表を通じて本学の質保証への取り組みとI R室の活動について強くアピールできたものと考えられます。



柝澤副室長の発表

外山課長の発表



村上主任のポスター発表



I Rが主導する教学アニュアルレポートの作成 (柝澤副室長発表)



人的リソースに左右されないI R業務マネジメント (外山課長発表)



全学的な教育の質保証のための学生調査のデザイン (村上主任・柝澤副室長発表)



第11回大学情報・機関調査研究会論文集
https://www.jstage.jst.go.jp/browse/mjir/11/0/_content/s-char/ja

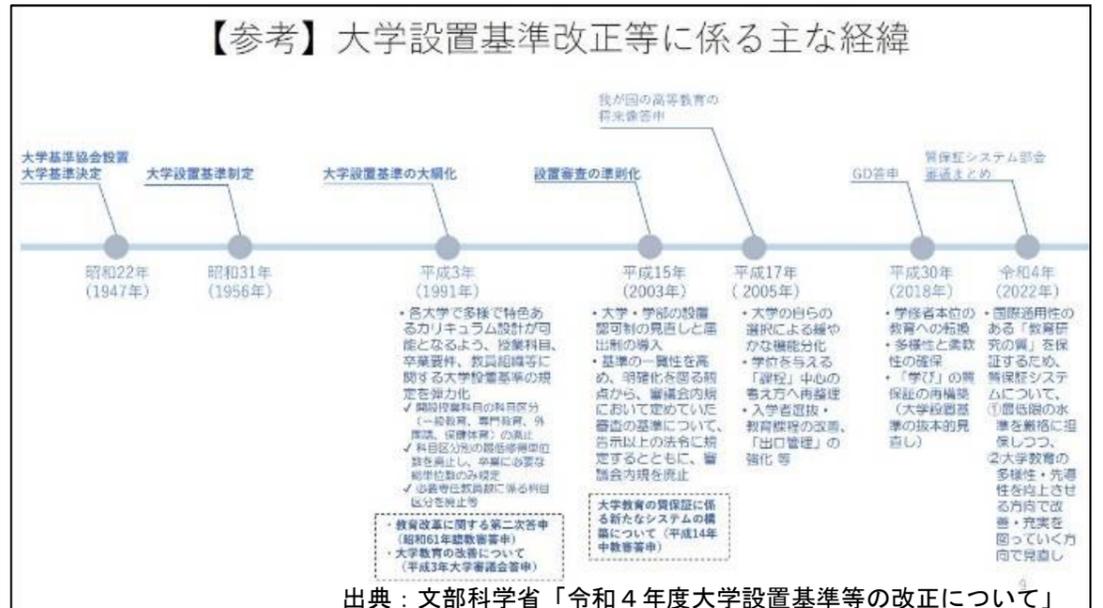
改正大学設置基準を踏まえた内部質保証体制強化への取り組み

2022（令和4）年10月1日付で改正された大学設置基準では、「学修者本位の教育の実現」の考え方を質保証システムへと反映させ、また、必要な情報を社会に公表し社会との対話を進める「社会に開かれた質保証」を図ることとする方針に基づき、「客観性の確保」、「透明性の向上」、「先導性・先進性の確保（柔軟性の向上）」及び「厳格性の担保」の観点を踏まえた規定の整備が行われました。

今回の大学設置基準改正は、「大学設置基準の大綱化」を定めた平成3年改正以来最大規模の改正とされ、今後の大学のあり方に多大な影響を及ぼすものです。

本学においても、この改正大学設置基準の趣旨を踏まえて、これまで積み上げてきた内部質保証の取り組みを一層強化・推進してゆきます。

以下、3つの施策の現況についてご報告します。



教育研究内部質保証評価会議発足へ

—予備会議を開催し正式発足の準備整う—

本学の教育研究の内部質保証体制とその稼働状況を検証するために、学部間協議会の下に設置される大阪医科薬科大学教育研究内部質保証評価会議の予備会議が2023（令和5）年1月13日に開催されました。評価会議の構成員のうち各学部より選任される教員と他大学の教員計6名と、各学部の学部長、教育センター長が一堂に会し、議長である学長の議事進行の下、会議の主旨、今後の進め方などを確認しました。今後、委嘱手続が済んでいない構成員の手続きを終え次第、第1回会議を開催し、今年度中を目途に昨年度の教育研究活動にかかる内部質保証の取り組みを検討する予定です。

教育年報2021年度版完成間近

—昨年プロトタイプ版作成の経験を活かし3学部連携—

前々号で制作開始をお伝えしました教育年報2021年度版につきましては、各学部、事務担当者の皆様のご協力の下、間もなく完成の予定です。

教育年報は、教育の質保証機能強化の一環として、アセスメントポリシーに沿って、その各項目について、PDCAサイクルが機能していることを検証することをその刊行の目的としており、2021（令和3）年度の実績に基づいて作成されます。

昨年プロトタイプ版作成時の反省点やノウハウを踏まえ、様式や分量、必要となるデータの種類・内容等について、当室及び各学部のご担当の方々がそれぞれ経験を活かしつつ作成を進めて参りました。大学設置基準の趣旨にもある「社会に開かれた質保証」の観点から、差支えない部分に関しては広く公開する予定です。

なお、作成にご協力いただきました各学部及び事務担当者の皆様には、御礼を申し上げますと共に、今後ともご協力の程、宜しくお願ひ申し上げます。

2022年度 大阪医科薬科大学学生調査

—質問紙・質問項目を一新、全学共通化、来夏結果公開—

旧大阪医科大学（医学部・看護学部）において実施されてきた「学勢調査」と旧大阪薬科大学（薬学部）において実施されてきた「学修支援・生活支援アンケート」を統合し、初めて実施される「2022年度 大阪医科薬科大学学生調査」が調査段階の佳境を迎えています。

IR室では、統合前の各大学の調査の内容を踏まえ、新調査の設計に着手。質問紙・質問項目を一新し、全学共通化を図るとともに、各学部の教育センター及び学生生活支援センター、学部事務担当者のご協力の下、内容の精査と学内コンセンサスの取得に努め、昨年9月には新質問紙の完成に至りました。

現在は、調査の最終段階にあり、今後、調査データの分析、調査報告書の作成を進め、夏頃には、結果を公開する予定です。

医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）公表

文部科学省は、2022（令和4）年11月18日に医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）を公表しました。

今から20年後以降の未来の社会も想定した医師として求められる資質・能力の改訂や、科目・教科に紐づいてきた記載をアウトカム基盤型教育の考え方に則った資質・能力に紐づいた記載に改めるなどの改訂が行われています。



医学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年度改訂版（文部科学省HP）

https://www.mext.go.jp/content/20221222-mxt_igaku-000026049_00001.pdf

編集後記

「IRだより」第6号は、第1面では、MJIRへの参加についてと室員紹介、第2面では内部質保証のための各種取り組みを中心にお届けしました。

次号第7号は4月のお届けを予定しております。

IRだより 2023年1月号（第6号）

発行年月日：2023年1月1日
 発行者：大阪医科薬科大学
 編集：大阪医科薬科大学IR室